

「授業改善に向けた3つの視点」と関連させた授業づくりのポイント

平成27年11月にリーフレット「とちぎの子どもの『確かな学力』の向上のために～授業改善に向けた3つの視点～」が出されました。そこで、この3つの視点を関連させた授業づくりのポイントを紹介します。

「授業改善に向けた3つの視点」

- 視点1 授業の目標（めあて・ねらい）を子どもたちに示すこと
- 視点2 授業を振り返る活動を行うこと
- 視点3 どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること

「ねらいの提示」「指導」「まとめ・振り返り」のつながりを意識した授業づくりが大切です。



導入

ねらいの提示

本時のねらいを子どもと共有します。

ねらいは、1単位時間で何ができるようになるか、何が分かればよいのかがはっきり分かる具体的な表現で示します。

ポイント①

子どもたちとねらいを共有し、子どもたちがねらいを自分のものとして自覚できるようにしましょう。

留意点

- ・ その授業のねらいに即したものであること
- ・ 子どもの実態に応じたレベルと表現であること
- ・ 学習意欲を刺激する魅力的なものであること
- ・ 具体的な問いかけであり、ゴールまで見通せること
- ・ 子どもが望まれる姿（評価規準）が見えること

ポイント②

ねらいを設定する際は子どもたちの言葉や考えを引き出しながら設定しましょう。

ねらいを設定する際は、教師が一方的にねらいを書くのではなく、教材文や前時の学習の振り返りを生かして、子どもたちの言葉や考えを引き出しながら設定することが基本となります。

子どもたちから出たキーワードや考え方を拾って教師が整理する方法もあります。実態に応じて設定してください。



- 本時の学習指導を通して身に付けさせたい力を明確にした上で「ねらい」を設定していますか。
- 「ねらい」を設定する際、先生と児童生徒のやりとりを大切にしていますか。
- 児童生徒の実態に応じて、学習意欲を高められるように「ねらい」の表現を工夫していますか。
- 「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識していますか。 ※リーフレットより抜粋

展開

指導

ねらいを達成するための学習活動を位置付け、指導します。

ポイント③
「記述」と「説明」
「話し合い」を意識的に
関連させましょう。

思考力・判断力・表現力等を育成するために、授業において自分の考えを書く活動を意図的に位置付けることが大切です。また、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付けることによって、自分の考えをまとめ整理させることが大切です。

ねらいを達成するために、教材・教具の工夫、発問や板書の工夫、ノート指導やねらいに迫るための学習活動（言語活動）の設定など、教科の特性、子どもたちの実態に応じて指導することが必要です。



ICTを活用することで、指導の効果を高めていくことも大切です。

終末

まとめ・振り返り

学習のまとめをし、振り返りをさせます。

ポイント④
ねらいを意識した
振り返りとなるように
しましょう。

ねらいを意識した振り返りをするすることで、子どもたちが、学習の達成感を感じたり、学んだ内容の再確認をしたり、次時につながる学習意欲をもったりすることが大切です。

その際、「この学習をして何が分かったのか、何ができたのか」、「分からなかったこと、できなかったことは何か」などと視点を明確にする必要があります。これらの振り返りを、教師が次の授業に生かすことで、子どもたちの学習意欲の向上につながります。

自己評価カードや相互評価カードの活用も有効です。



算数・数学なら、学習を通してまとめたことを使ってきちんと問題が解けるかどうかの「適用問題」や「チャレンジ問題」を用意することも有効です。

- 本時の学習指導を通して、子どもたちが何が分かったのか、何ができるようになったのか等、自分の学びを振り返る時間を確実に位置付けていますか。
- 発達の段階に応じて、振り返る活動を重視していますか。
- 児童生徒の振り返りから学習状況を把握し、本時の「ねらい」を達成できたか確認（評価）し、次時の授業に生かしていますか。 ※リーフレットより抜粋

次回は、「ねらいの提示」「指導」「まとめ・振り返り」のつながりを意識した具体的な実践事例について紹介します。